

STTG工法の適用は
電力設備からインフラ設備へ。
その実績が広がっています。

STTG工法は、6年間で止水延長約13kmを実施。東京電力グループの地中送電用洞道をはじめ、水力発電用ダムの打継ぎ目や監査廊、建物地下、下水処理施設管廊などさまざまな施設での施工実績があり、施工後の経過も良好です。現在は、電力設備から社会インフラ設備へ技術提供が広がっています。

施工実績① 下水道処理施設



施工実績② ダム洪水吐け



施工実績③ ダム監査廊



特許 特許番号：特許第5300162号

NETIS 登録No.：KT-140103-A (2020.2.13 NETIS技術リストの掲載期間を満了)

東京都建設局 新技術情報データベース 登録番号：1601010

一般社団法人 STTG工法協会

〒146-0095 東京都大田区多摩川2丁目8番1号

(東京電設サービス株式会社多摩川事業所内)

TEL：03-6715-4395

E-mail：sttgkouhou@hb.tp1.jp

URL：http://www.sttg.or.jp/



STTG工法は、一般社団法人 STTG工法協会の登録商標です。

STTG工法

コンクリート
構造物の漏水を
確実に止水する。



一般社団法人 STTG工法協会

STTG工法

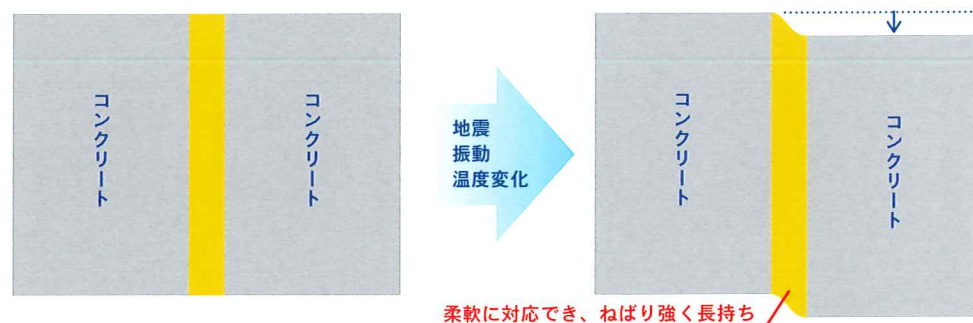
STTG工法の特長

- 継ぎ目やひび割れの変位に対して柔軟に対応
- 大量の漏水箇所への適用が可能
- 優れた長期耐久性で施工後の再漏水を防止

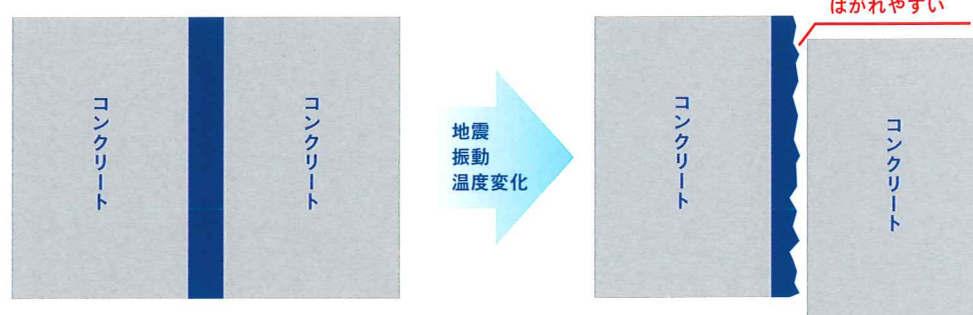
STTG工法と 従来工法との違い

STTG工法は従来工法と比較し、地震などにより構造物の継ぎ目やひび割れに変位が生じても、施工部分はそれを柔軟に吸収します。これにより施工後の再漏水が発生しにくくなり、メンテナンスの負担を軽減することができます。

STTG工法：コンクリート構造物の動きやズレをしなやかに吸収します。



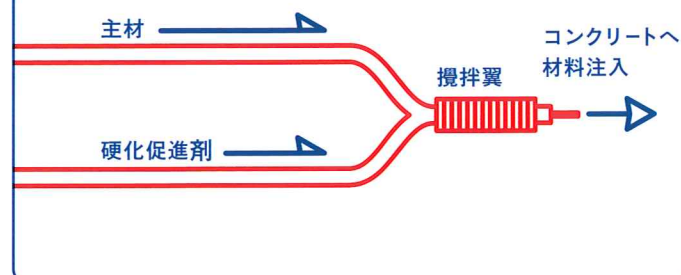
従来工法：コンクリート構造物の変位に対応しきれないことがあります。



最適な材料を、最適なタイミングで
注入することで、止水効果を最大化します。

STTG工法とは、「Super（優れた）、Two Top（2液性の）、Grout工法（クラック等をふさぐための注入技術）」からネーミングされました。付着性と伸びに優れた石油樹脂・アクリル樹脂系材料（主材）と吸水性ウレタンプレポリマーを含む硬化促進剤という2液を、直前に混合し注入することで止水効果を発揮します。施工方法は、従来と同様にコンクリート構造物を削孔して注入する形式となっています。

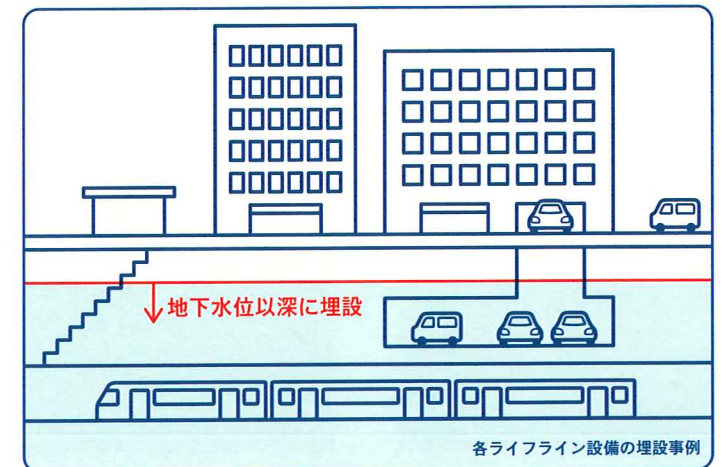
SUPER TWO TOP GROUT



コンクリート構造物の継ぎ目、ひび割れなどから発生する水漏れをしっかりとストップする新しい止水工法。もしもの事故を未然に防ぎ、誰もが安全に安心して生活できる基盤を保ちます。同時に、インフラを維持していくためのトータルコストも圧縮することができます。

地下インフラにとって、
水漏れは悩みの種となります。

多くの場合、鉄筋コンクリートで構築されている地下の大型インフラ。地下水位より深い位置に埋設されているため、その継ぎ目などから、地下水が漏れ出してくることがあります。また、経年劣化や荷重条件の変化などにより、ひび割れが発生して、漏水するケースも見られます。

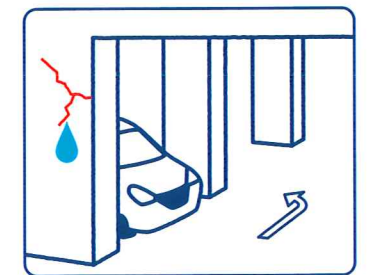
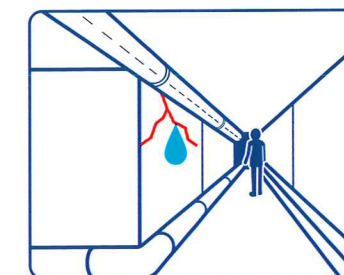
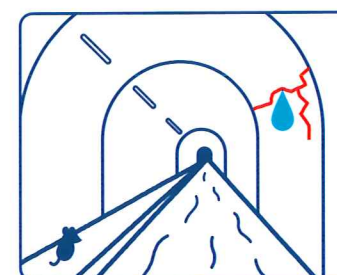
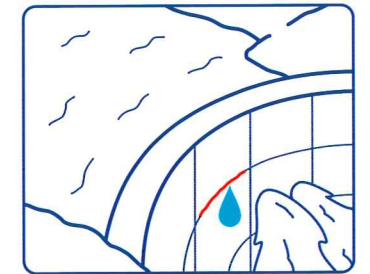
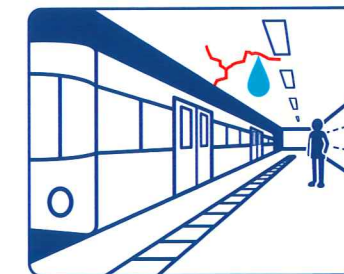
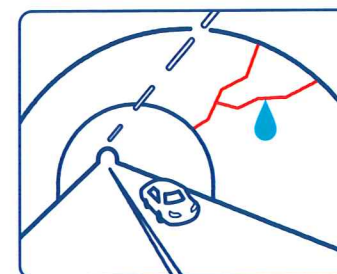


インフラ停止・事故・ケガ…

水漏れは、私たちの生活に深刻な影響をおよぼす原因に。

コンクリート構造物の水漏れは、鉄筋の腐食・コンクリートの剥離を引き起こします。それを放置してしまうと、破損や陥没・崩落などにつながり、私たちの暮らしに大きな影響をおよぼすだけでなく、大規模な補修や設備の更新などが必要になってきてしまいます。

STTG工法の適用箇所



協会に認定された監理者と技術者のみが
STTG工法を提供しています。

どの現場においても、STTG工法の本来の性能を安定して提供していくために、施工の品質管理や技術力の向上が大切になってきます。STTG工法協会では、監理者・技術者に対して所定の技能認定講習会を実施しています。

